

JAAF

Japan Association of
Athletics Federations

OFFICIAL GUIDE

2019-2020

日本陸上競技連盟公式ガイド



日本陸上競技連盟の事業

公益財団法人日本陸上競技連盟は、日本の陸上競技界を統括し、代表する団体です。
陸上競技を通じてスポーツの普及と振興を図り、国民の皆様の心身の健全な発達、
そして豊かな人間性を育むことに寄与するために、さまざまな活動を行っています。



強化

- 日本代表選手団派遣 主要国際大会一覧
- 選手強化システム
- 世界陸上／U20世界陸上
- タレント育成システムの構築
- 「ダイヤモンドアスリートプログラム」



大会

- 日本陸上競技連盟 主催大会一覧
- マラソングランドチャンピオンシップ
- 日本グランプリシリーズ



普及

- 競技者育成／指導者養成
- 普及活動
- JAAF RunLink
- 登録者数



組織

- オリンピック・世界選手権での活躍と
日本陸上競技連盟小史
- 日本陸上競技連盟概要

ごあいさつ

私ども日本陸上競技連盟は、1925年の創立以来、陸上競技に携わる多くの方々のご尽力、ご支援により、今日ある日本陸上競技界を築いてまいりました。90年を超える歴史を積み重ねて来られたのは、関係各位の皆様のご理解、ご協力の賜物であると改めて深く感謝申し上げます。来るべき100年に向けて、なお一層の努力を傾注してまいり所存でございます。

一昨年、本連盟は、日本の陸上競技界が持続的に発展していくために、目指すべき方向性を示した「JAAF VISION 2017」を発表いたしました。国際競技力の向上とウェルネス陸上の実現という2つのミッションを掲げ、今までの役割にとらわれない成長をめざしております。アスリートが最大限、世界の舞台で才能を開花させることが出来るよう多種の施策を推し進めるとともに、各種競技会や講習会の開催、指導者の養成などの活動を通じて、スポーツを行う場を提供し、スポーツの機会の創造に取り組んでまいります。

更には、コンプライアンスとガバナンス強化に努め、日本陸上競技界の根幹を支えて頂いている加盟団体、協力団体をはじめとする地域や関連団体との連携をより進め、多くの関係者とともに歩み、スポーツの振興はもとより、環境保全や社会貢献への積極的な取り組みも続けてまいります。

公益財団法人日本陸上競技連盟 会長 横川 浩





LIVE ATHLETIC

よりアスレティックでいようライブのアスレティックを体験しよう

JAAFの目的

陸上競技を通じてスポーツ文化の普及および振興を図り、
もって国民の心身の健全な発達に寄与し、豊かな人間性を涵養する。

陸上競技の価値

陸上競技は、さまざまなスポーツの基礎となる。場所やレベルに関わらず、やる人、みる人を感動させる力を持つ。
人々のライフスタイルをアクティブにする力を持つ。

JAAFミッション

国際競技力の向上(トップアスリートが活躍し、国民に夢と希望を与える)
ウェルネス陸上の実現(すべての人がすべてのライフステージにおいて陸上競技を楽しめる環境を作る)

JAAFビジョン

2028年 世界のトップ8 アスレティックファミリー150万人
2040年 世界のトップ3 アスレティックファミリー300万人



世界へ、栄光へ、羽ばたく

JAAF は各年代やカテゴリーに応じた強化・育成システムで、2020年の東京オリンピックや、その他の世界大会で競技者が才能を最大限に発揮できるようサポートします。

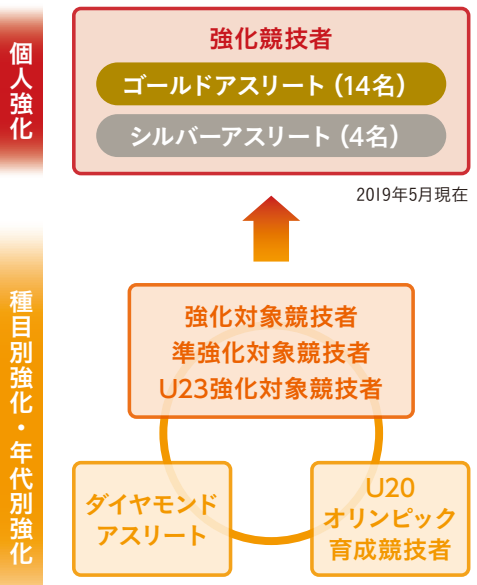
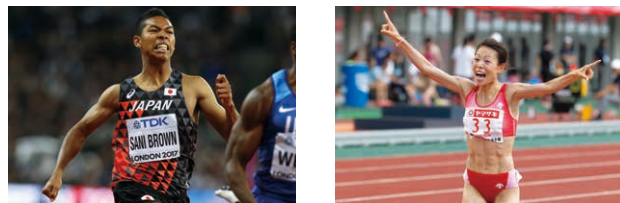
日本代表選手団派遣 主要国際大会一覧

	2019	2020	2021	2022	2023	2024
シニア (世界)	17) ドーハ世界選手権 4) 世界リレー(横浜) 43) 世界クロカン (デンマーク)	32) 東京オリンピック 19) 世界室内 29) 世界競歩チーム 24) 世界ハーフマラソン	18) ユーゼーン 世界選手権 5) 世界リレー 44) 世界クロカン	19) 杭州アジア大会 20) 世界室内 30) 世界競歩チーム 25) 世界ハーフマラソン	19) 世界選手権 6) 世界リレー 45) 世界クロカン	33) パリオリンピック 21) 世界室内 31) 世界競歩チーム 26) 世界ハーフマラソン
シニア (アジア)	23) アジア選手権 17) アジアマラソン	15) アジアクロカン選手権 9) アジア室内選手権	24) アジア選手権 18) アジアマラソン	16) アジアクロカン 10) アジア室内 19) アジアマラソン	25) アジア選手権 19) アジアマラソン	17) アジアクロカン 11) アジア室内
ジュニア ・ユース	3) アジアユース	18) U20世界選手権 19) アジアジュニア	4) アジアユース	19) U20世界選手権 20) アジアジュニア	5) アジアユース	20) U20世界選手権 21) アジアジュニア

※記載情報は2019年5月現在のものです。※片カッコ内は回数を表しています。

選手強化システム

2020年東京オリンピックを見据えて、トップ競技者、ジュニア世代の競技者の強化・育成を行っています。



2019年5月現在

世界陸上／U20世界陸上



【男子50km 競歩】
荒井 広宙 3:41:17 銀メダル
小林 快 3:41:19 銅メダル

【男子4×100m リレー】
多田修平 - 飯塚翔太 - 桐生祥秀 - 藤光謙司
38.04 銅メダル

タンペレ2018 U20世界陸上

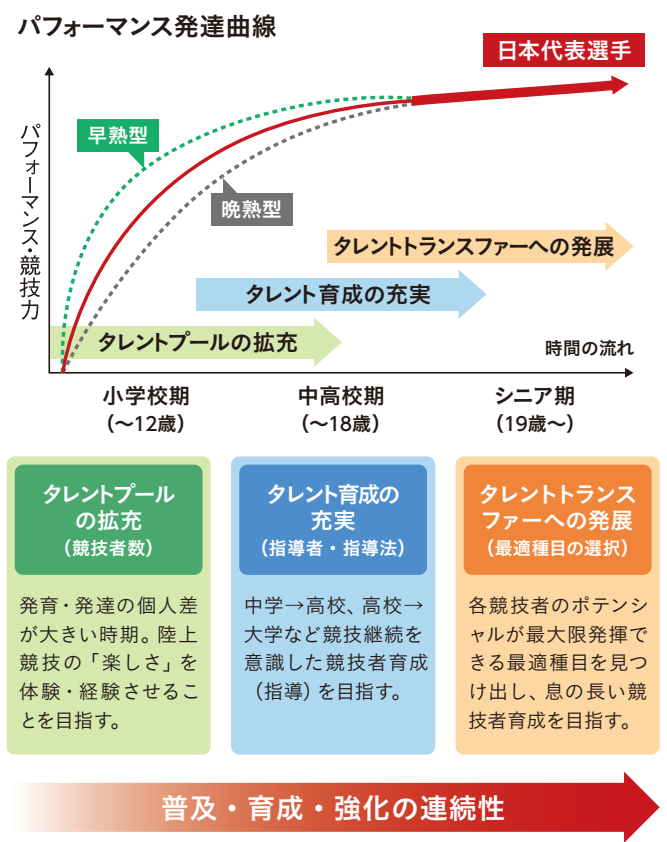
【男子 走幅跳】
橋岡 優輝
8.03 +0.9m/s
金メダル

【女子3000m】
田中 希実
8:54.01 金メダル

タレント育成システムの構築

一人でも多くの競技者に、少しでも長く陸上競技を続けてもらうために、競技者一人一人と向き合った発掘・育成を行う仕組みを構築します。

- ▶ **中学・高校生世代の発掘**
国際舞台で活躍した競技者の多くは、中学、高校以降に専門の種目を決定し、10年足らずで世界レベルに達しているという世界の傾向から、中学、高校世代以降のタレントを発掘します。
- ▶ **タレントを決めつけない(タレント・プールの形成)**
タレント発掘の基準は、記録や競技会の結果に固執しません。様々な指標を設け、全国各地のタレント・マネージャーが実際に目で見てポテンシャルの高い競技者を発掘することで、多種多様な能力を持ったタレントの集団を形成します。
- ▶ **種目を転向し、才能を開花させる(タレント・トランスファー)**
専門の種目に拘らず、様々な種目に挑戦することで、各競技者のポテンシャルが最大限発揮できる最適種目を見つけ出し、世界への一歩を踏み出します。



「ダイヤモンドアスリートプログラム」

国際大会での活躍が大いに期待できる次世代競技者を対象に、個を重視したプログラムを準備し、競技力向上を多面的にサポートするプログラム。

- ◆リーダーシップ
- ◆語学研修
- ◆海外合宿／遠征サポート
- ◆栄養サポート
- ◆医科学測定／フィジカルサポート
- ◆心理サポート
- ◆メディアトレーニング
- ◆海外コーチ招聘

※第5期(2018-2019) 認定アスリートは、11名。



陸上競技の科学的調査・研究

大会や合宿で科学的調査・研究活動を実施し、その結果を選手や指導者にフィードバックしています。またその成果を「陸上競技研究紀要」などにまとめています。

陸上競技研究紀要

ドーピング防止活動の推進とトップ競技者へのメディカルサポート

日本代表選手を中心に、コンディショニングチェックや、メディカルサポートを行っています。また、アンチドーピングの啓発活動を推進し、「Anti-3D」を発行するなど選手や指導者への情報提供を行っています。

Anti-3D

共に競い合い、高め合う

JAAFでは年間35の主催大会を開催し、日本国内で約4,000大会を公認しています。多くの才能がぶつかり合い、切磋琢磨することで互いの競技力を向上させています。

日本陸上競技連盟 主催大会一覧

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
トラック & フィールド		- ゴールデングランプリ - 日本選手権10000m	- 全日本中学通信陸上 - 日本選手権混成 - U20日本選手権混成 - 日本選手権		- 全国高校陸上 - 全国定通制高校陸上 - 全国小学生陸上 - 全国高専陸上 - 全国中学陸上 - 全国高校陸上選抜		- 国民体育大会 - ジュニアオリンピック - U20日本選手権 - U18日本選手権 - 日本選手権リレー				日本室内陸上大阪	
マラソン	長野マラソン					マラソングランドチャンピオンシップ (2019年)			- 福岡国際マラソン - さいたま国際マラソン - 大阪国際女子マラソン			- 東京マラソン - 名古屋ウィメンズマラソン - びわ湖毎日マラソン
競歩	日本選手権50km 競歩										日本選手権20km 競歩	全日本競歩能美
駅伝										- 皇后盃全国女子駅伝 - 天皇盃全国男子駅伝		
クロス カントリー								- 小学生 クロスカントリーリレー - 全国中学駅伝 - 全国高校駅伝	- 全国中学生クロスカントリー - 日本選手権クロスカントリー - U20日本選手権クロスカントリー			

※記載情報は2019年6月17日現在のものです。

ゴールデングランプリ陸上



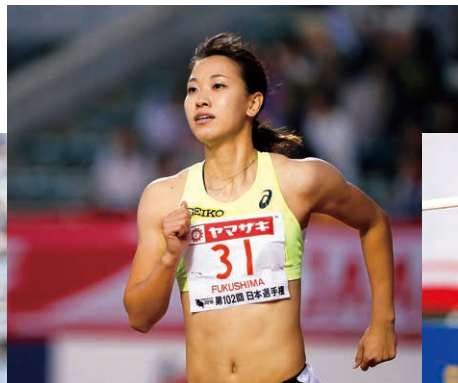
日本陸上競技選手権大会



日本室内陸上競技大会



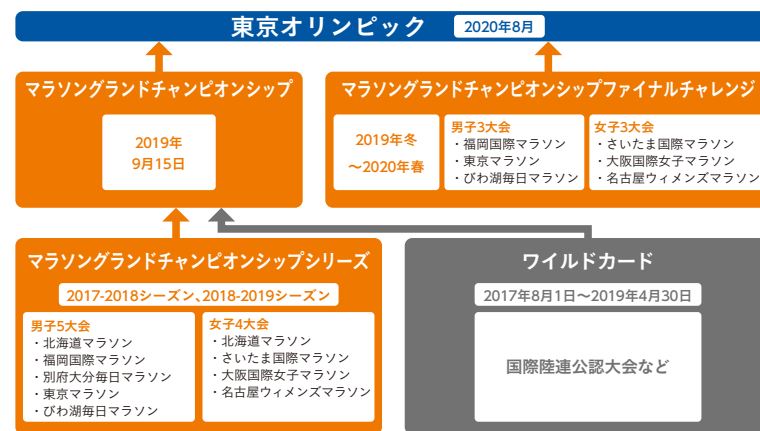
東京マラソン



マラソングランドチャンピオンシップ

2020年東京オリンピックのマラソンにおいてメダルを獲得するため、これまでの実績と課題を基に、オリンピックに向けた強化とリンクした新たな選考方法を実施します。

※選考方針は日本陸連公式 HP でご確認ください



マラソングランドチャンピオンシップ Official Site ▶ <http://www.mgc42195.jp/>

日本グランプリシリーズ

2018年にスタートした、指定大会を対象に年間を通してポイントを目指すトラック & フィールドの大会の総称です。シリーズを通して世界で活躍できるアスリートの強化・育成を図るとともに、国内各地で開催することで、ファン層の拡大や応援文化の定着、開催地ならではの特色ある大会づくりを目指します。



日本グランプリシリーズ Official Site ▶ <http://www.jaaf.or.jp/gp-series/>



2018シリーズチャンピオン

<男子>100m 山縣亮太(所属:セイコー)
<女子>5000m 山ノ内みなみ(所属:京セラ)



競技規則の制定、審判員の養成、記録の公認



競技規則を制定し、ルールブック・審判ハンドブックを発行しています。また公認審判員制度を設け、審判員の養成を行い、全国で約4万人の審判が大会運営にあたっています。さらに、日本記録をはじめとした、記録の公認も行っています。

陸上競技場、長距離競走(歩)路の公認と用器具の検定

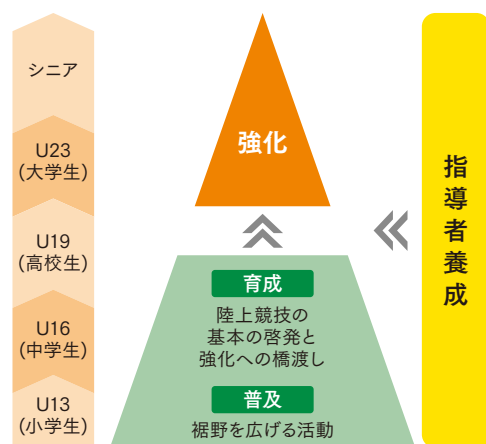


競技場の検定
競技会が公平で正しく運営され、記録の信頼性を保つ目的で、陸上競技場、長距離競走(歩)路の公認及び用器具の検定制度を設けています。全国に約500の公認陸上競技場と約250の公認長距離競走(歩)路があります。

スポーツを、すべての人へ

世界を目指す選手の育成はもちろん、選手を支える指導者の養成や陸上競技の裾野を広げる普及活動もまた JAAF の重要な使命です。競技全体の底上げが、未来を照らす光へとつながります。

競技者育成



競技者育成指針に沿って、一人でも多くの競技者が長く陸上競技を楽しむために、そしてトップアスリートの育成に繋げるために、各年代・ステージに合った競技者育成および指導者養成を進めていきます。

▶ 指導者養成

JAAF 公認コーチ、JAAF 公認ジュニアコーチ養成講習会をはじめ、コーチングクリニックや指導者講習会を、年間を通じて開催し、競技者育成指針に沿った指導者の養成／育成を行います。

▶ 普及活動

ジュニア期において必要な“身体リテラシー”の獲得、そして陸上競技を楽しむことを重視し、“日清食品カップ”全国小学生陸上競技交流大会での「コンバインド競技」の実施や、U13・U16クリニック事業の開催、主要大会での「キッズデカスロンチャレンジ」の実施などに取り組みます。

指導者養成

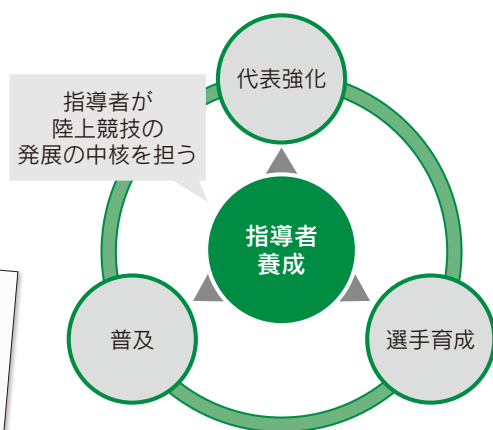
指導者の養成

- ▶ JAAF 公認コーチ養成講習会 (日本スポーツ協会公認 陸上競技コーチ3)
- ▶ JAAF 公認ジュニアコーチ養成講習会 (日本スポーツ協会公認 陸上競技コーチ1)
- ▶ CECS レベル I コーチ養成講習会

ブラッシュアップ

- ▶ JAAF コーチングクリニック
- ▶ 指導者講習会

各種教材の作成



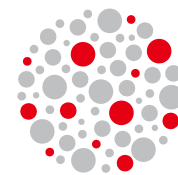
普及活動

- ▶ JAAF アスリート発掘育成プロジェクト『クリニック事業』
- ▶ “日清食品カップ”全国小学生陸上競技交流大会
“日清食品カップ”全国小学生クロスカントリーリレー研修大会
- ▶ キッズデカスロンチャレンジ

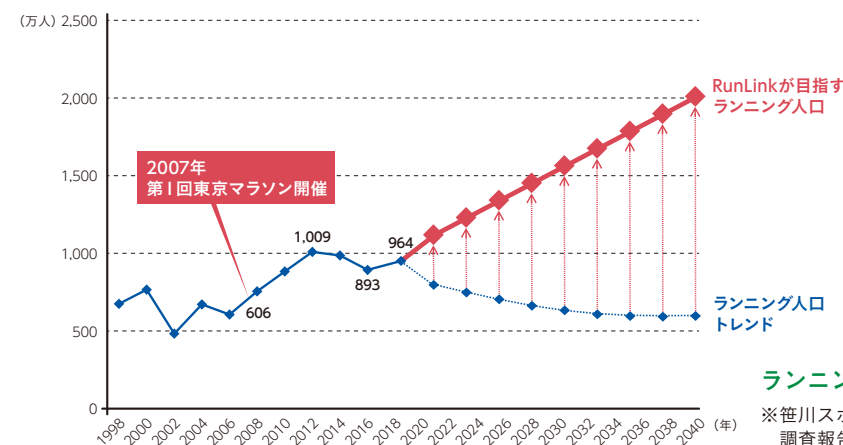


JAAF RunLink

2040年までにランニング人口2,000万人を目指すことを目標に、市民マラソン大会の統括・支援、個々人のライフスタイルに合わせたランニングを楽しめる環境・機会を提供することを目的とした新プロジェクトです。



JAAF RunLink

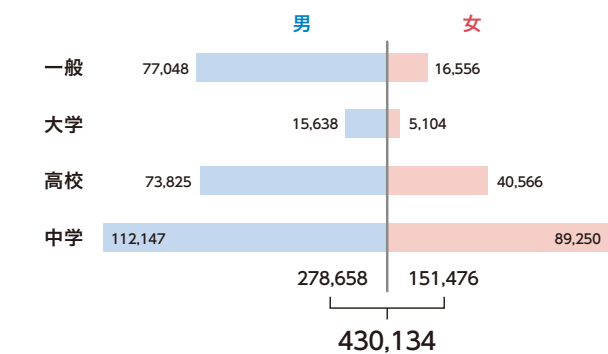


2018年11月発足会見の様子

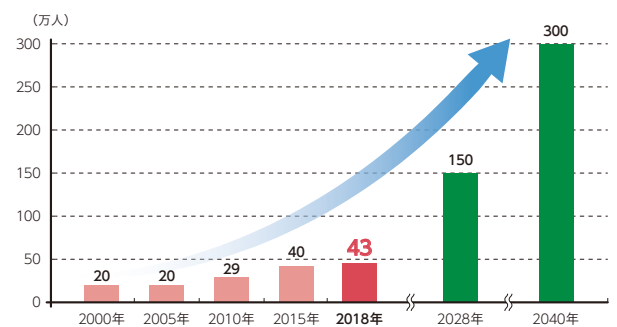
JAAF RunLink Official Site ▶ <https://www.jaaf-runlink.jp/>

登録者数

陸連登録者数は、2015年に40万人を突破しました。アスレティックファミリーの拡大に向け、登録制度の見直しと基幹システムの開発に取り組んでいます。



2018年度登録者数



登録者の推移と将来目標

アスレティックファミリー（競技会参加者、審判、指導者）を2040年までに、300万人に拡大することを目指します。

栄章

本連盟では、陸上競技界に功労、功績及び勲功があった競技者・関係者に栄章を贈り、その名誉を表彰しています。

■ アスレティックス・アワード



日本選手権優勝者の栄誉を称えと共に、国内外の競技会で活躍が顕著であった競技者や、陸上競技を通じて社会に貢献した競技者・関係者を表彰することを目的に2007年より実施しています。

歴代アスリート・オブ・ザ・イヤー

2007年	土佐礼子	三井住友海上
2008年	塚原直貴	富士通
	末續慎吾	ミズノ
	高平慎士	富士通
	朝原宣治	大阪ガス
2009年	村上幸史	スズキ
2010年	福島千里	北海道ハイテクAC
2011年	室伏広治	ミズノ
2012年	室伏広治	ミズノ
2013年	福士加代子	ワコール
2014年	右代啓祐	スズキ浜松AC
2015年	谷井孝行	自衛隊体育学校
2016年	山縣亮太	セイコーホールディングス
	飯塚翔太	ミズノ
	桐生祥秀	東洋大学
	ケンブリッジ飛鳥	
2017年	荒井広宙	自衛隊体育学校
2018年	大迫 傑	ナイキ

※選手所属先は受賞時の所属とする。

未来を育てるために

オリンピック・世界選手権での活躍と
日本陸上競技連盟小史

オリンピック・世界選手権のメダリストたち

これまでの入賞数
2019年6月17日現在

	金	銀	銅
オリンピック	7	9	9
世界選手権	4	7	15



1928 アムステルダム

- 金 織田幹雄(男子三段跳)
- 銀 人見絹枝(女子800m)



1932 ロサンゼルス

- 金 南部忠平(男子三段跳)
- 銀 西田修平(男子棒高跳)
- 銅 南部忠平(男子走幅跳)
- 銅 大島鎌吉(男子三段跳)



1936 ベルリン

- 金 孫 基禎(男子マラソン)
- 金 田島直人(男子三段跳)
- 銀 西田修平(男子棒高跳)
- 銀 原田正夫(男子三段跳)
- 銅 南 昇竜(男子マラソン)
- 銅 大江季雄(男子棒高跳)
- 銅 田島直人(男子走幅跳)



1964 東京

- 銅 円谷幸吉(男子マラソン)



1968 メキシコシティ

- 銀 君原健二(男子マラソン)



1992 バルセロナ

- 銀 森下広一(男子マラソン)
- 銀 有森裕子(女子マラソン)



1996 アトランタ

- 銅 有森裕子(女子マラソン)



2000 シドニー

- 金 高橋尚子(女子マラソン)



2004 アテネ

- 金 室伏広治(男子ハンマー投)
- 金 野口みずき(女子マラソン)

2008 北京

- 銀 塚原・末續・高平・朝原(男子4×100mリレー)

2012 ロンドン

- 銅 室伏広治(男子ハンマー投)

2016 リオデジャネイロ

- 銀 山縣・飯塚・桐生・ケンブリッジ(男子4×100mリレー)
- 銅 荒井広宙(男子50km競歩)

世界選手権

1991 東京

- 金 谷口浩美(男子マラソン)
- 銀 山下佐知子(女子マラソン)

1993 シュツットガルト

- 金 浅利純子(女子マラソン)
- 銅 安部友恵(女子マラソン)

1997 アテネ

- 金 鈴木博美(女子マラソン)
- 銅 千葉真子(女子10000m)

1999 セビリア

- 銀 市橋有里(女子マラソン)
- 銅 佐藤信之(男子マラソン)

2001 エドモントン

- 銀 土佐礼子(女子マラソン)
- 銀 室伏広治(男子ハンマー投)
- 銅 為末 大(男子400mH)

2003 パリ

- 銀 野口みずき(女子マラソン)
- 銅 末續慎吾(男子200m)
- 銅 室伏広治(男子ハンマー投)
- 銅 千葉真子(女子マラソン)

2005 ヘルシンキ

- 銅 尾方 剛(男子マラソン)
- 銅 為末 大(男子400mH)

2007 大阪

- 銅 土佐礼子(女子マラソン)

2009 ベルリン

- 銀 尾崎好美(女子マラソン)
- 銅 村上幸史(男子やり投)

2011 テグ

- 金 室伏広治(男子ハンマー投)

2013 モスクワ

- 銅 福士加代子(女子マラソン)

2015 北京

- 銅 谷井孝行(男子50km競歩)

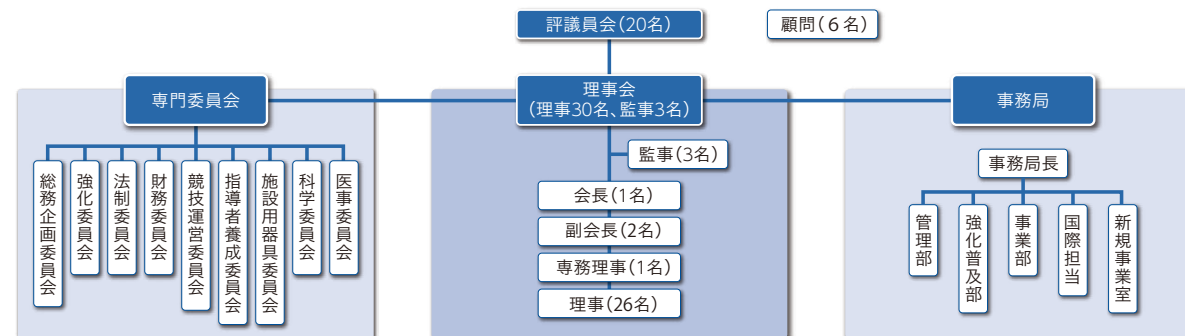
2017 ロンドン

- 銀 荒井広宙(男子50km競歩)
- 銅 小林 快(男子50km競歩)
- 銅 多田・飯塚・桐生・藤光(男子4×100mリレー)

- 1913 大日本体育協会が第1回陸上競技会(今の日本陸上競技選手権大会)を開催。
- 1924 大日本体育協会が国際陸上競技連盟(IAAF)に加盟。
- 1925 3月8日に全日本陸上競技連盟創立。
- 1928 8月7日に第9回IAAF総会で大日本体育協会に代わり全日本陸上競技連盟が、わが国の陸上競技界統括団体として加盟承認。
- 1945 戦争で中断していた全日本陸上競技連盟の組織が復活。以降日本陸上競技連盟と称す。
- 1950 日本陸上競技連盟のIAAFへの復帰が承認された。
- 1955 創立30周年を迎え、「日本陸連30年史」を刊行。秩父宮章が制定された。
- 1971 3月に行われた昭和45年度代議員会で法人化が決定。それを受けて4月24日、日本陸上競技連盟が文部省より財団法人として認可を受ける。
- 1991 第3回世界選手権を東京・国立競技場で開催。
- 1995 創立70周年を迎え「日本陸上競技連盟70年史」を刊行。
- 1998 第12回アジア選手権を福岡市・博多の森陸上競技場で開催。
- 1999 第7回世界室内選手権をアジアで初めて前橋市・グリーンドーム前橋で開催。
- 2005 創立80周年を迎え「日本陸上競技連盟80年史」を刊行。
- 2006 第34回世界クロスカントリー選手権を、アジアで初めて福岡市・海の中道海浜公園で開催。
- 2007 第11回世界選手権を大阪・長居陸上競技場で開催。第1回アスレチック・アワードを開催。
- 2011 第19回アジア選手権を兵庫県神戸市・神戸総合運動公園ユニバー記念競技場で開催。8月1日、日本陸上競技連盟が公益財団法人に移行。
- 2016 第100回日本陸上競技選手権大会を開催。
- 2018 日本グランプリシリーズが開幕。第18回アジアジュニア選手権を岐阜・長良川競技場で開催。
- 2019 世界リレー2019横浜大会を横浜国際総合競技場にて開催。

日本陸上競技連盟概要

組織図





JAAF

Japan Association of
Athletics Federations

オフィシャルパートナー



オフィシャルスポンサー



オフィシャルサポーターカンパニー

